

## 19 透析室における動脈硬化と足病変の実態調査 ～フットケアチェックシートを作成して～

佐久総合病院  
透析室

浅沼聖美 小須田芙美香 芝田房枝 山崎 諭 池添正哉

### 【はじめに】

透析医療の進歩により透析歴の長期化、高齢者の増加、生活習慣の欧米化に伴いDM透析患者の割合が増える中、当院においてもDM透析患者は全体の30%で今後も増えることが予想されます。近年動脈硬化が注目される中、当院では平成18年からABI・PWV検査を定期的に行い足の評価を行っています。

DM透析患者は非DM透析患者に比べて動脈硬化が進行していると言われていますが、ABI・PWV検査の結果を分析し、当院ではどのような結果がでるか、また実際に患者の足症状の有無を調査して、検査結果と足の状態との関連を検討しました。

### 【目的】

DM・非DM透析患者のABI・PWVの検査結果と足の状態との関連を調査する。

### 【対象及び方法】

対象は外来透析患者154名うちDM透析患者51名、非DM透析患者103名です。下肢切断している患者と検査拒否している患者・新規透析導入患者は除外します。方法は、ABI・PWV検査の結果をDM透析患者と非DM透析患者とで比較する、実際の足症状をFontaine分類にわけDM透析患者と非DM透析患者とで比較し、フットケアチェックシートを作成しました。

### 【結果】

ABI検査で基準値外だった患者の割合はDM透析患者では38%、そのうち足症状のある患者は14%、足症状のない患者は24%でした。閉塞性動脈硬化症の症状分類としてFontaine分類がありますが、今回の結果で、基準値外の患者38%で分類すると、I度55%、II度20%、III度20%、IV度5%でした。

非DM透析患者で基準値外だった患者の割合は21%。そのうち足症状のない患者は19%、足症状

のある患者は2%でした。基準値外の21%の患者で分類するとI度63%、II度37%、III度～IV度は0%でした。DM透析患者と比べると有意差が認められ、DM透析患者の方が重症度が高いといえます。また、PWVの検査結果においても基準値外だった割合は、DM透析患者が76%、非DM透析患者は66%でDM透析患者の割合の方が高い結果となりました。また、分布図においても高齢に伴いPWV値は高値を示しています。しかし、PWV検査の結果だけでは動脈硬化が進行しているとは言いがたく、他にも慢性腎疾患・肥満・喫煙・運動不足・ストレス・加齢なども危険因子としてあげられます。これらの要因をふまえ、DM透析患者のみならず非DM透析患者においてもフットケアをしていく必要があり、また、ABI検査での基準値外の患者においても、定期的な足の観察と、フットケアが必要と考え、フットケアチェックシートを作成しました。



